看護者の危険認知と医療安全教育
～すべての人々に安全な医療・看護の提供を目指して～

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　准教授　　米田　照美
研究分野　：基礎看護学・教育工学・医療安全
研究室ＨＰ：http://www.nurse.usp.ac.jp/kiso/

人々が病や障害から健康を回復するため、看護者（医療者）として安全な医療・看護を提供することは最低限の責務です。そのためには、看護者が療養環境のリスクを認知する観察眼を持つことが求められます。看護者の観察眼を解明し、看護教育において優れた危険認知力をもつ看護者の育成に貢献したいと考えています。

１．看護者の危険認知に関する観察眼の解明

医療事故を未然に防ぐためには、看護者が素早く危険を認知する技能が重要です。下記の眼球運動測定機器を用いて、看護師の優れた危険認知の特徴を学生との比較によって明らかにする研究を行っています。観察場面として「高齢者の車椅子やポータブルトイレへの移乗」「歩行」「小児患者のベッド周辺環境」など療養環境の場面を取り上げて看護者の注視や視線の軌跡を計測しています。

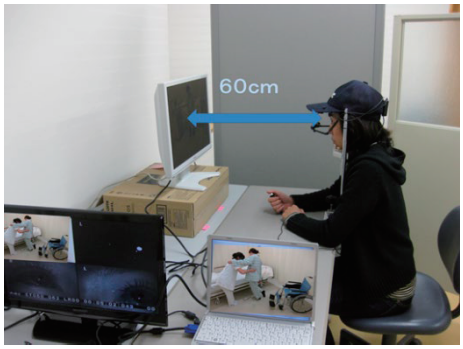
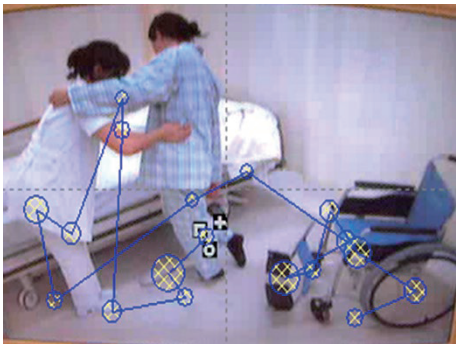
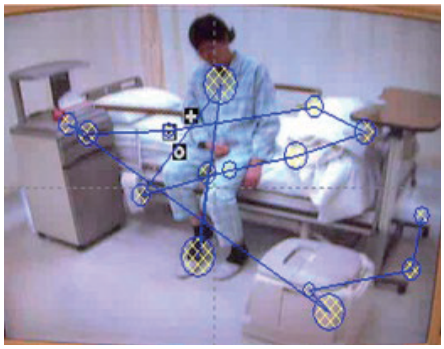


図１．眼球運動計測の状況


図２．車椅子移乗観察時の視線分析


図３．ベッドサイド観察時の視線分析

（写真の〇は注視時間の長さ、線は注視の軌跡を表す）

２．医療事故模擬体験演習の開発・実施・評価

看護学生を対象に医療事故に関わる危険認知の向上を目指した医療事故模擬体験やシミュレーション教育を実施し、その学習効果を検証しています。医療事故をよりリアルに再現するために模擬患者役はスタントマンが演じています。


図４．医療事故再現劇の様子


図５．グループで車椅子移乗体験


図６．車椅子移乗体験の様子